

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-106	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Neighborhood socioeconomic status and substance use by U.S. adults. アメリカの成人における地域の社会経済状況と薬物使用の関係について		
<b>執筆者</b>		
Karriker-Jaffe KJ		
<b>掲載誌</b>		
Drug Alcohol Depend. 2013 Nov 1;133(1):212-21. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2013.04.033.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
地域、喫煙、飲酒、薬物使用		23726978
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 本研究は、豊かな地域、普通の地域、貧しい地域の 3 つの地域を比較し、社会経済状態と喫煙、飲酒、大麻、その他の薬物の関係を明らかにする。本研究では、(1)貧しい地域ではストレスに関連したあるいはハイリスクな物質使用パターンを示し(薬物乱用など)、(2)豊かな地域では文化的・健康的な使い方をしている(適量飲酒など)、という 2 つの仮説を立てた。年齢を調整変数とした。</p> <p><b>方法：</b> 2000 年の国勢調査の地域の社会経済状態のデータと National Alcohol Survey (NAS) の 2000 年と 2005 年のデータとを用い、14,531 名の成人を対象とした。男女に分けてサンプリングや無回答と調整したウエイトをかけた多変量調整ロジスティック回帰分析を行った。</p> <p><b>結果：</b> 仮説の通り、普通の地域に比べて、貧しい地域では男女ともに喫煙のオッズが高く、女性ではその他の薬物使用のオッズが高かった。豊かな地域では、男性の喫煙のオッズが低く、女性の大麻使用のオッズが低かった。男性では、社会経済状態と喫煙の関係は年齢の影響を受け、貧しい地域ではすべての年代で喫煙のオッズが高く、普通の地域では若い世代でオッズが高かった。社会経済状態と飲酒には有意な関係は認めなかった。</p> <p><b>結論：</b> 物質依存のリスクは貧しい地域と普通の地域の若い世代と貧しい地域の高齢者で高く、物質依存の介入の際に考慮に入れるべきである。</p>		